

理科 第3学年 じしゃくのふしぎ 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：観察した共通点や違いを基に、「じしゃくにつく物や、じしゃく同士の動きには、どんなきまりがあるだろうか」につながる問題を見だし、表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。A(4)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：見た目が似た金属製品も材質を確認して磁石に近付け、付く物と付かない物を記録する。端同士の組合せを変え、引き合うか退け合うかを図にする。磁石を近付けた鉄が他の鉄を引き付ける様子も確かめる。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。A(4)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：金属は全部つくと考えの子には、鉄とアルミニウムなど材質が確認できる物を並べる。強く引き付ける端と極の名前を区別して記録する 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。A(4)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。極の組合せと動きを調べる活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：小さな磁石を口に入れない。機器や磁気カード、医療機器に近付けない。強力すぎる磁石を使わず指を挟まないようにする 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、A(4)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：見た目が似た金属製品も材質を確認して磁石に近付け、付く物と付かない物を記録する。端同士の組合せを変え、引き合うか退け合うかを図にする。磁石を近付けた鉄が他の鉄を引き付ける様子も確かめる。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全7時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「じしゃくにつく物や、じしゃく同士の動きには、どんなきまりがあるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「じしゃくにつく物や、じしゃく同士の動きには、どんなきまりがあるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。性質を生かした道具を考える活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

